



2016年3月期第2四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

2015年10月
大阪ガス株式会社

I. 16.3期第2四半期実績と通期見通し

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています : 下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能です。<http://www.osakagas.co.jp/ir/>

「見通し」に関する注意事項 : このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略等が含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 : 全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。

連結ガス販売量に関する注記 : 名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。

四半期表記に関する注記 : 特に断りのない限り、「四半期」は「四半期累計期間」を表します。

16.3期第2四半期決算のポイント

対前年同期比較

■ 概況

連結売上高	ガス事業における販売単価の下落および販売量の減少等により、 前年比8.1%(561億円)減収の6,414億円。
連結経常利益	LNG価格の下落に伴う原材料費の減少によって、ガス事業の利益が増加したこと等により、 前年比60.6%(350億円)増益の929億円。
四半期純利益*	前年比38.9%(184億円)増益の659億円。

* 親会社株主に帰属する四半期純利益

■ ガス販売量(個別)

家庭用	春先の気水温が高く推移し、暖房・給湯需要が減少したこと等により、 前年比1.4%(11百万m³)減少の774百万m³。
商・公・医療用	お客さま設備の稼働が減少したことや、夏期の気温が低く推移し、冷房需要が減少したこと等により、 前年比0.9%(6百万m³)減少の723百万m³。
工業用	お客さま設備の稼働が減少したこと等により、 前年比2.1%(43百万m³)減少の2,017百万m³。

16.3期第2四半期決算のポイント II

対見通し比較

■ 概況

連結売上高	ガス売上高が減少したものの、関係会社の売上高が増加したこと等から、 見通しを0.2%(14億円)上回る6,414億円。
連結経常利益	ガス事業における費用の減少等により、 見通しを9.4%(79億円)上回る929億円。

■ ガス販売量(個別)

家庭用	春先の気水温が高く推移し、暖房・給湯需要が減少したこと等により、 見通しを1.6%(12百万m³)下回る774百万m³。
商・公・医療用	夏期の気温が想定より低く推移し、冷房需要が減少したこと等により、 見通しを1.0%(7百万m³)下回る723百万m³。
工業用	お客さま設備の稼動が減少したこと等により、 見通しを4.8%(102百万m³)下回る2,017百万m³。

■ その他

新規事業拡大投資	海外の上流・中下流案件、材料ソリューション事業における買収案件、国内の発電所建設への投資を中心に、 上半期の投資実行額は計551億円(年間計画額の37%)。
----------	---

16.3期第2四半期ガス販売実績

45MJ/m ³		A. 16.3期 2Q	B. 15.3期 2Q	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B	C. 16.3期 2Q見通し	見通し比 (A-C)/C
個別	お客さま数(千件)	7,215	7,158	+57	+0.8%	7,194	+0.3%
	新設工事件数(千件)	46	45	+1	+2.1%	40	+15.2%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	21.8	22.2	-0.4	-2.0%	22.2	-1.8%
	家庭用	774	785	-11	-1.4%	786	-1.6%
	商・公・医療用	723	730	-6	-0.9%	731	-1.0%
	工業用	2,017	2,060	-43	-2.1%	2,119	-4.8%
	業務用計	2,740	2,790	-49	-1.8%	2,849	-3.8%
	他ガス事業者向け	224	221	+3	+1.3%	242	-7.3%
	(うち大口供給)	2,332	2,384	-52	-2.2%	2,441	-4.5%
	ガス販売量合計(百万m ³)	3,738	3,795	-57	-1.5%	3,877	-3.6%
連結ガス販売量	3,756	3,812	-57	-1.5%	3,895	-3.6%	

16.3期第2四半期実績 |

連結:億円	A. 16.3期2Q		B. 15.3期2Q		()内は連単倍率		C. 16.3期 2Q見通し	見通し比 (A-C)/C
					前年差 A-B	前年比 (A-B)/B		
売上高	(1.25)	6,414	(1.22)	6,976	-561	-8.1%	6,400	+0.2%
営業利益	(1.21)	940	(1.31)	538	+402	+74.7%	835	+12.7%
経常利益	(1.12)	929	(1.25)	578	+350	+60.6%	850	+9.4%
四半期純利益	(1.09)	659 ^{※1}	(1.12)	475	+184	+38.9%	590	+11.8%
SVA ^{※2}		499		315	+184	+58.5%	434	+14.9%
		A. 16.3期2Q	B. 15.3期2Q	前年差 A-B	C. 16.3期 2Q見通し	見通し差 A-C		
スライド差損益	億円	510	71	+439	530	-20		
原油価格 ^{※3}	\$/bbl	58.9	109.5	-50.7	60.0	-1.2		
為替レート	円/\$	121.9	103.0	+18.9	120.0	+1.9		
連結子会社数		147	147	±0	---	---		

※1 親会社株主に帰属する四半期純利益

※2 SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

※3 16.3期2Q原油価格実績は、9月速報値までの平均。

16.3期第2四半期実績 II

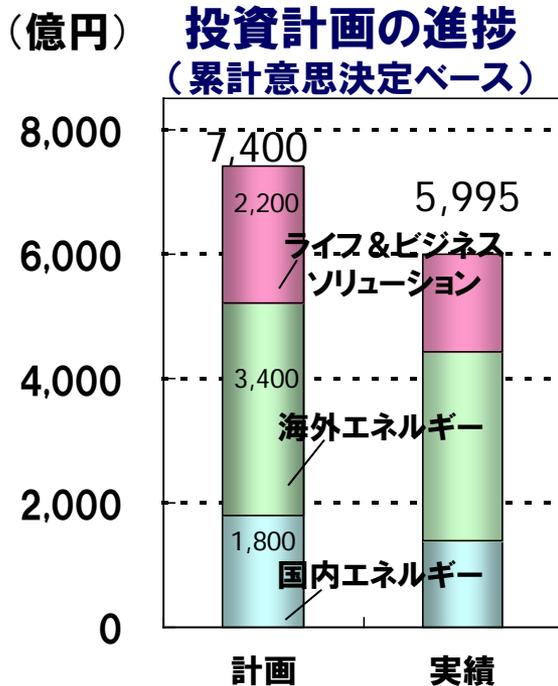
連結:億円	A. 16.3期 2Q末	15.3期 2Q末	B. 期末	A-B	備考
総資産	18,499	16,775	18,622	-122	
自己資本	9,393	8,328	8,884	+508	利益剰余金の増加等
有利子負債	5,936	5,683	6,339	-403	流動負債の減少
在籍人員	21,486	21,395	20,982	+504	水澤化学工業の新規連結等
自己資本比率	50.8%	49.6%	47.7%	+3.1%	
D/E比率	0.63	0.68	0.71	-0.08	
	A. 16.3期2Q	B. 15.3期2Q		A-B	備考
設備投資	514	558		-44	上流案件投資の減少等
減価償却費	422	428		-6	
フリーキャッシュフロー	1,305	368		+937	たな卸資産の減少等
ROA	3.6%	2.8%		+0.7%	
ROE	7.2%	5.8%		+1.4%	
EPS (円/株)	31.7	22.8		+8.9	ガス粗利益の増加等
BPS (円/株)	451.5	400.2		+51.2	固定資産の増加等

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設定投資による支出。

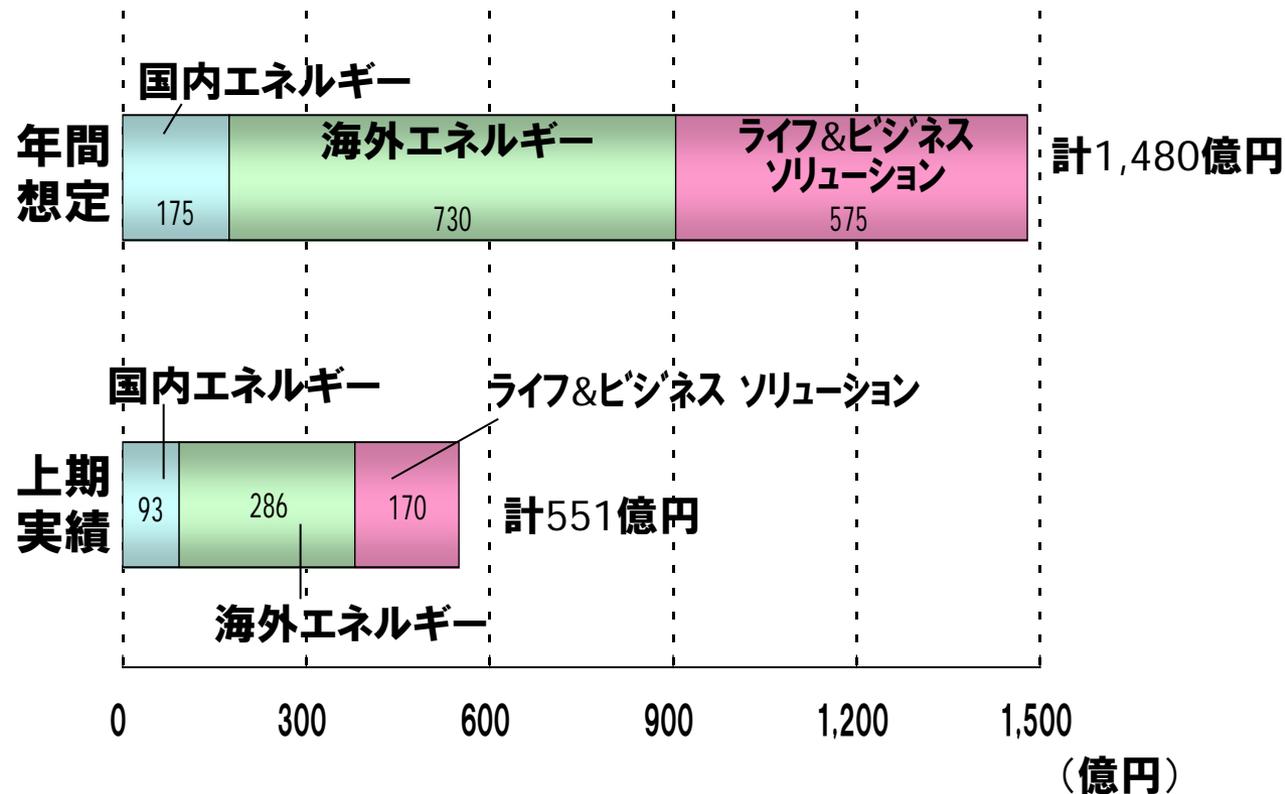
16.3期第2四半期新規事業拡大投資実績

- 海外の上流・中下流案件、材料ソリューション事業における買収案件、国内の発電所建設への投資を中心に、計551億円の新規事業拡大投資を実行。
- 10.3期-17.3期の意思決定済金額は5,995億円(対計画81%)。

10.3期-17.3期(8か年)



16.3期の新規事業拡大投資



投資額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります。

16.3期見通し 修正のポイント

		今回見通し	当初見通し	差	備考
下期の 前提諸元	原油価格 \$/bbl	55.0	70.0	-15.0	
	為替レート 円/\$	125	120	+5	
個別ガス 販売量 (百万m ³) (45MJ/m ³)	家庭用	(1,394)	(1,416)	(-22)	省エネ・節約行動の 影響等を織り込み
		2,168	2,202	-34	
	業務用 その他	(3,065)	(3,134)	(-69)	お客さま設備の稼働 減少等を織り込み
	6,029	6,225	-195		
収支 (億円)	連結売上高	13,585	13,685	-100	
	ガス粗利	3,750	3,540	+210	スライド差益の拡大
	営雑・附帯利益	271	255	+16	附帯差益の増加
	労務費・諸経費・ 減価償却費	3,031	3,055	-24	諸経費の減少
	関係会社利益	395	395	±0	見通し修正はありません
	連結営業利益	1,385	1,135	+250	
	連結営業外収支	-85	-35	-50	持分法投資利益の減少等
	連結経常利益	1,300	1,100	+200	

(注)ガス販売量の上段()内は、16.3期下期の数値(内数)。

16.3期ガス販売見通し

45MJ/m ³		A. 16.3期 見通し	B. 15.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
個 別	お客さま数(千件)	7,217	7,196	+22	+0.3%
	新設工事件数(千件)	107	107	+0	+0.5%
	家庭用1戸当り販売量(m ³ /月)	30.6	30.9	-0.4	-1.2%
	家庭用	2,168	2,186	-18	-0.8%
	商・公・医療用	1,436	1,465	-29	-2.0%
	工業用	4,121	4,133	-13	-0.3%
	業務用計	5,557	5,599	-42	-0.7%
	他ガス事業者向け	472	474	-1	-0.3%
	(うち大口供給)	(4,724)	(4,755)	(-31)	(-0.7%)
	ガス販売量合計(百万m ³)	8,197	8,259	-61	-0.7%
連結ガス販売量	8,230	8,290	-61	-0.7%	

16.3期見通し I

()内は連単倍率

連結:億円	A. 16.3期 見通し	B. 15.3期 実績	前年差 A-B	前年比 (A-B)/B
売上高	(1.29) 13,585	(1.22) 15,281	-1,696	-11.1%
営業利益	(1.40) 1,385	(1.31) 1,050	+334	+31.8%
経常利益	(1.25) 1,300	(1.23) 1,081	+218	+20.2%
当期純利益	(1.17) 875 ^{※1}	(1.09) 767	+107	+14.1%
SVA ^{※2}	545	429	+115	+27.0%
スライド差損益	億円	645	123	+522
原油価格 ^{※3}	\$/bbl	56.9	90.4	-33.4
為替レート ^{※3}	円/\$	123.4	109.8	+13.7

※1 親会社株主に帰属する当期純利益

※2 SVA(Shareholders' value added)=NOPAT- 投下資本×WACC

※3 2015年10月～2016年3月の前提は、原油価格55\$/bbl、為替レート125円/\$

16.3期見通し II

連結:億円	A. 16.3末見通し	B. 15.3末実績	A-B
総資産	18,780	18,622	+157
自己資本	9,505	8,884	+620
有利子負債	6,206	6,339	-133
在籍人員	21,901	20,982	+919
自己資本比率	50.6%	47.7%	+2.9%
D/E比率	0.65	0.71	-0.06
	A. 16.3期見通し	B. 15.3期実績	A-B
設備投資	1,253	1,193	+59
減価償却費	845	877	-32
フリーキャッシュフロー	1,519	1,122	+397
ROA	4.7%	4.3%	+0.3%
ROE	9.5%	9.1%	+0.4%
EPS (円/株)	42.1	36.9	+5.2
BPS (円/株)	456.8	427.0	+29.8

FCF=営業活動によるキャッシュフロー(税引後営業利益+減価償却費等非現金支出)-通常の設備投資による支出。

II. 参考資料

直近トピックス I

■ タイにおけるPTTとのエネルギーサービス共同会社の設立

会社名	OGP Energy Solution Co., Ltd. (予定)
設立時期	平成27年11月
出資比率	Osaka Gas (Thailand) : 60%、PTT Retail Business* : 40%
事業内容	タイ王国の産業用顧客への燃料転換エネルギーサービス、エネルギー関連事業の実施



* 天然ガス輸入から小売まで営むタイ王国最大企業グループであるPTT Public Company (2014年度売上高・約9.5兆円) の子会社

■ 事業の概要

顧客の燃料転換時に必要となる天然ガス売買契約や設備設計、リース、メンテナンスをワンストップで行い、その対価としてエネルギーサービス料金を受け取るスキーム。



直近トピックスⅡ

■ 風力発電所の建設(和歌山県・日高郡印南町)

(株)ガスアンドパワー※1が、印南風力発電(株)※2 が新たに発行する株式を取得し、子会社化

※1 大阪ガス(株)の100%子会社

※2 三井造船(株)の100%子会社

■ 発電所の概要

会社名	印南風力発電株式会社
設立時期	平成27年2月
資本金	4億9,500万円
出資比率	(株)ガスアンドパワー:95%、三井造船(株):5%
発電容量	2.6万kW(2千kW×13基)
運転開始	2018年6月(予定)



■ 現在保有している風力発電所

- 葉山風力発電所(高知県)
- 広川明神山風力発電(和歌山県)
- 由良風力発電(和歌山県)
- 肥前風力発電(佐賀県)
- 平生風力発電(山口県)

大阪ガスグループは、再生可能エネルギー事業を通じ、環境負荷の低減に取り組んでいます。

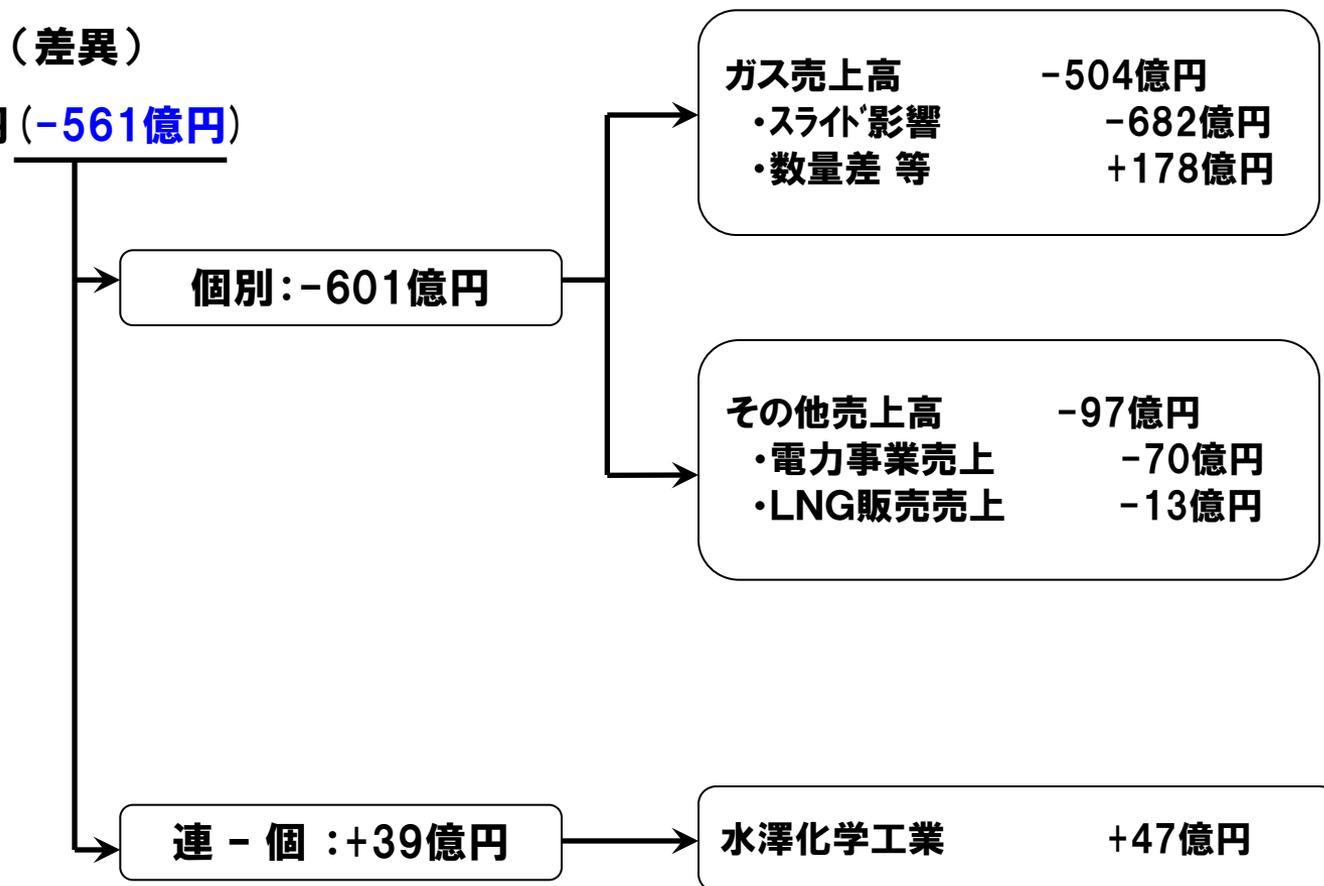


● 現在保有電源(風力発電)

16.3期第2四半期の売上高差異(対前年同期)

15.3期2Q → 16.3期2Q (差異)

6,976億円 6,414億円 (-561億円)



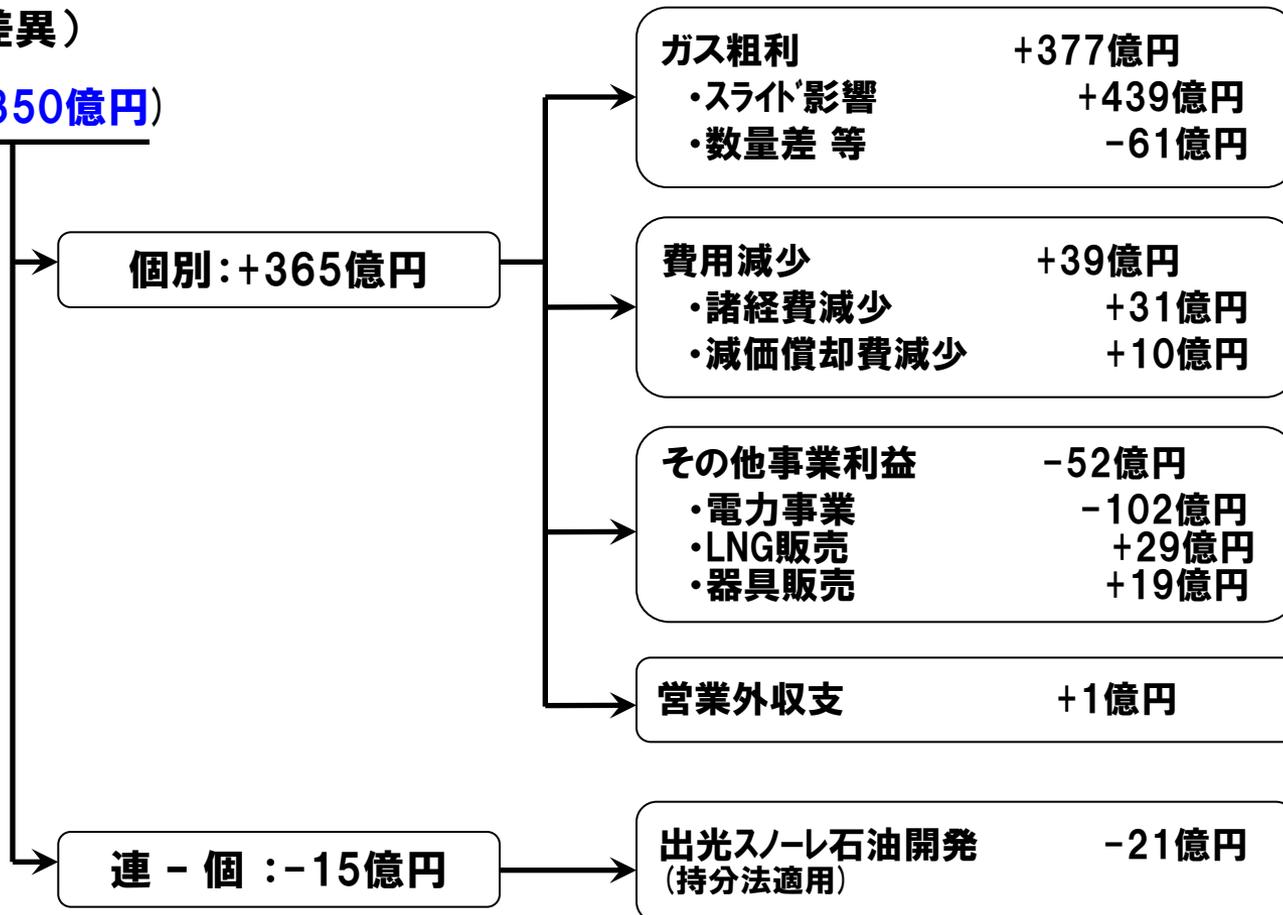
16.3期第2四半期の経常利益差異(対前年同期)

+-の符号は、利益影響を表す。

15.3期2Q → 16.3期2Q (差異)

578億円

929億円 (+350億円)



16.3期第2四半期の売上高差異(対見通し)

16.3期 2Q見通し → 16.3期 2Q実績(差異)
6,400億円 6,414億円 (+14億円)

個別: -20億円

ガス売上高 -43億円
・スライド'影響 +41億円
・数量差等 -85億円

その他売上高 +22億円
・附帯事業売上 +24億円
(主に電力事業)

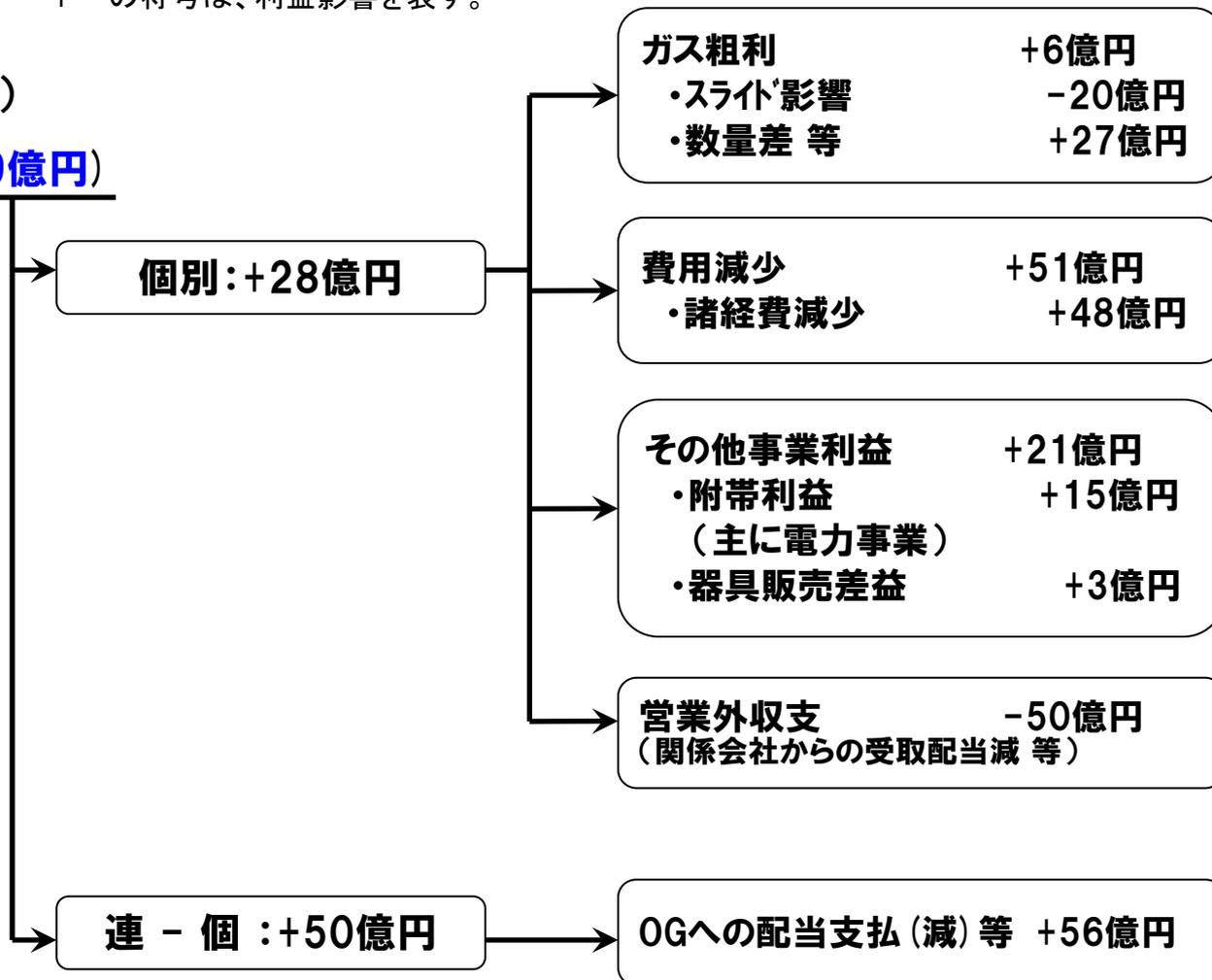
連 - 個 : +34億円

OGエンジニアリング +7億円
Osaka Gas USA +6億円
オーヂス総研 +3億円
関西ビジネスインフォメーション +2億円

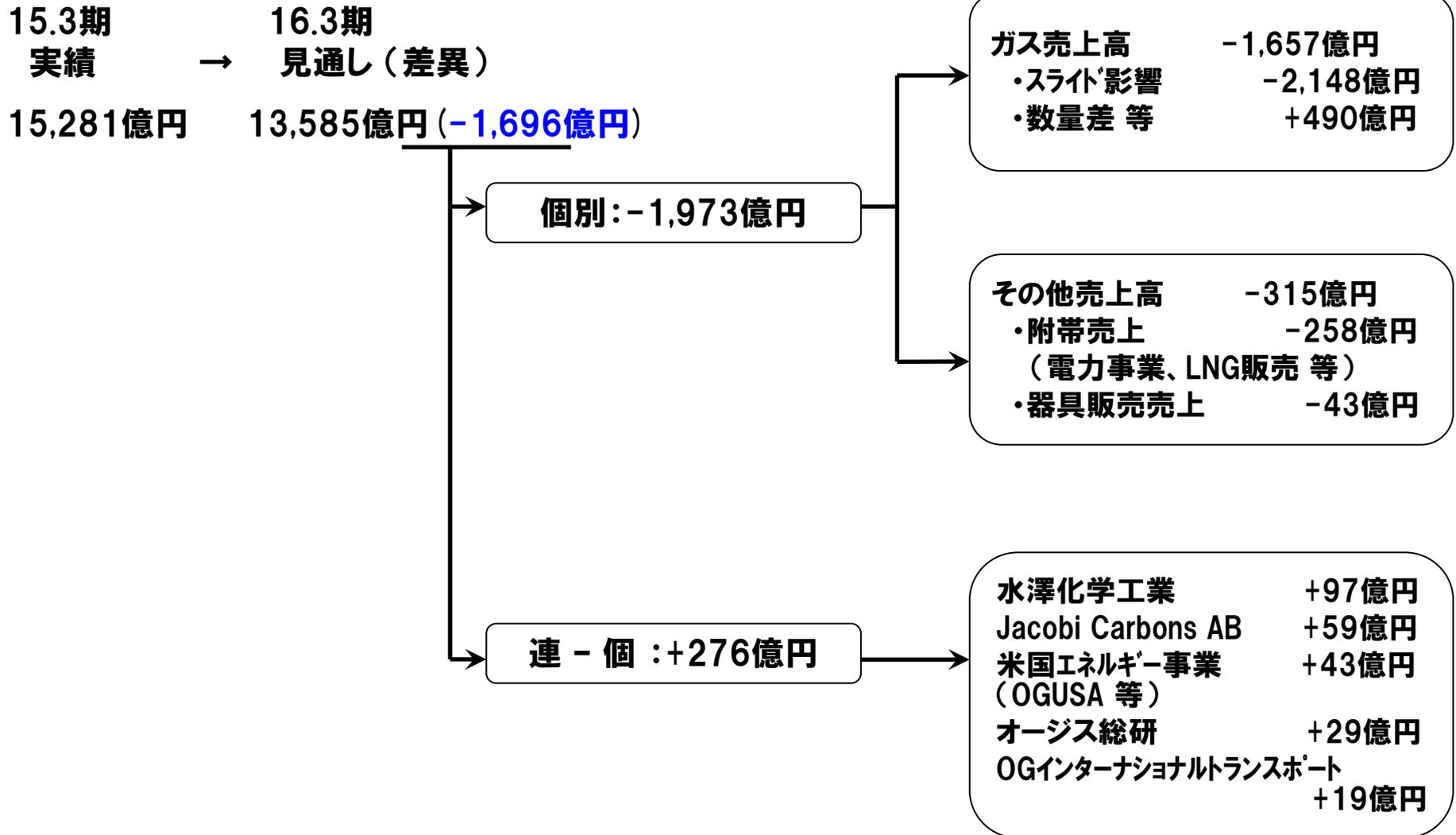
16.3期第2四半期の経常利益差異(対見通し)

+-の符号は、利益影響を表す。

16.3期
2Q見通し → 16.3期
2Q実績(差異)
850億円 → 929億円(+79億円)



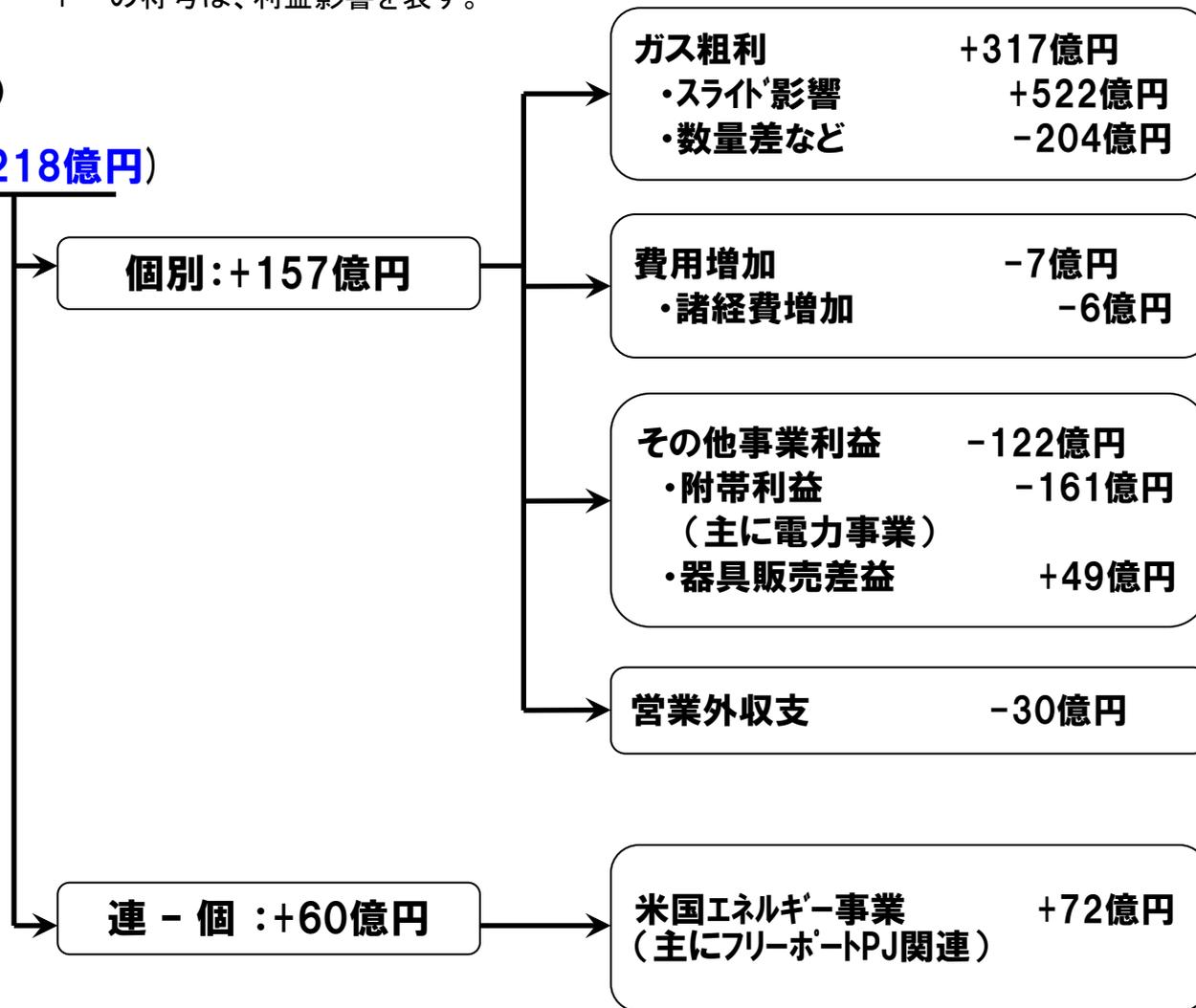
16.3期売上高見通しの前年差異



16.3期経常利益見通しの前年差異

+-の符号は、利益影響を表す。

15.3期 実績 → 16.3期 見通し(差異)
1,081億円 1,300億円(+218億円)



セグメント別実績

単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	16.3期 2Q	15.3期 2Q	16.3期 2Q	15.3期 2Q	
ガス	4,586	5,103	648	212	売上:販売量減少・販売単価下落 利益:ガス粗利の増加
LPG・電力・ その他エネルギー	1,038	1,194	169	257	売上・利益:主に電力事業で減少 電力事業利益(**) 15.3 2Q 202億円 16.3 2Q 100億円
海外エネルギー	107	65	36	49	売上:米国エネルギー事業等で増加 利益:油価下落の影響等により、 主に上流事業で減少
ライフ&ビジネス ソリューション	1,002	933	74	53	売上:情報・材料ソリューション事業等で増加 利益:情報ソリューション事業等で増加 (前期・一時的費用計上の反動増等)
消去又は全社	-321	-320	7	12	
連結	6,414	6,976	937	586	

(*)セグメント利益=営業利益+持分法投資損益

(**)電力事業利益は、大阪ガス附帯電力事業の営業利益を表示

セグメント別通期見通し

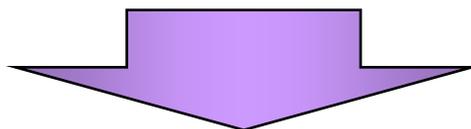
単位:億円	売上高		セグメント利益(*)		備考
	16.3期 見通し	15.3期 実績	16.3期 見通し	15.3期 実績	
ガス	9,639	11,369	850	502	売上:販売量減少・販売単価下落 利益:ガス粗利の増加
LPG・電力・ その他エネルギー	2,131	2,437	260	416	売上:電力事業・LNG販売等で減少 利益:主に電力事業で減少
海外エネルギー	203	137	45	12	売上・利益: 米国エネルギー事業等で増加
ライフ&ビジネス ソリューション	2,291	2,075	210	165	売上・利益:材料ソリューション事業等で 増加(前期・一時的費用計上の反動増等)
消去又は全社	-679	-737	22	22	
連結	13,585	15,281	1,387	1,120	

(*)セグメント利益＝営業利益＋持分法投資損益

家庭用ガス販売

16.3期2Q実績

	対前期	備考
調定件数	+0.6%	
気水温影響	-1.4%	平均気温23.2度(対前期+0.2度)
その他	-0.6%	ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等
合計	-1.4%	



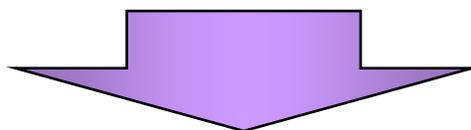
16.3期通期見通し

- 上期は、見通しを12百万 m^3 下回った。
- 下期は、見通しを22百万 m^3 下回ると想定。
- 通期では、前期を18百万 m^3 ・見通しを34百万 m^3 下回る2,168百万 m^3 と想定。

商公医療用ガス販売

16.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+2.9%	空調需要を中心とした新規開拓
気温影響等	-0.3%	夏場の低気温による冷房需要の減少
個別要因	-1.4%	特殊要因によるお客さま先での設備稼働の減少
その他	-2.1%	ガス機器の高効率化、お客さまの省エネルギー推進等
合計	-0.9%	



16.3期通期見通し

- 上期は、見通しを7百万m³下回った。
- 下期は、見通しを3百万m³下回ると想定。
- 通期では、前期を29百万m³・見通しを10百万m³下回る1,436百万m³と想定。

工業用ガス販売

16.3期2Q実績

	対前期	備考
需要開発	+1.9%	他燃料からのガス転換等
稼動増減等	-2.0%	お客さま設備の稼動減少等
個別要因	-0.4%	特殊要因による減少
その他	-1.6%	
合計	-2.1%	

主な業種別実績 (45MJ, 百万m³)

	販売量	対前期比
機械	157	98.2%
金属	474	94.1%
ガラス	147	96.0%
化学	616	101.2%
食品	258	100.5%

16.3期通期見通し

- 上期は、見通しを102百万m³下回った。
- 通期では、前期を13百万m³・見通しを159百万m³下回る4,121百万m³と想定。

16.3期 月次ガス販売の推移

前年同月比 (%)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期累計
家庭用		99.7	93.4	96.0	107.4	101.8	97.6	98.6
商・公・医療用		100.8	107.9	94.6	96.6	102.4	94.3	99.1
工業用		98.2	93.2	96.8	100.0	102.4	96.7	97.9
業 種 別	機械	97.2	93.5	103.5	97.9	103.2	93.5	98.2
	金属	93.6	91.4	92.7	95.9	97.8	93.4	94.1
	ガラス	92.4	89.7	97.6	97.4	100.2	98.8	96.0
	化学	100.9	93.6	101.1	103.8	106.5	101.6	101.2
	食品	99.6	97.6	100.0	103.3	103.5	99.0	100.5
他ガス事業者向け		103.2	97.0	101.9	101.5	108.2	96.5	101.3
計		99.4	95.6	96.6	100.5	102.7	96.2	98.5

年度見通しに対するリスク要因

■ 気温・水温

- 気温・水温1度の変化に対して、家庭用ガス販売量は、春秋期約5%・夏期約6%・冬期約4%変動する可能性がある。

■ 原油価格

- LNG価格が原油価格にリンクすること等から、原油価格+1\$/bblの変化に対し、今年度第3四半期以降の経常利益は-12億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

- LNG価格が米ドル・円の為替レートにリンクすること等から、為替レート+1円/\$の変化に対し、今年度第3四半期以降の経常利益は-8億円変動する可能性がある。

■ 原料費

- 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成により、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

- 金利1%の変動に対して、今年度の連結営業外費用が年間5億円変動する可能性がある。